

BRICS が拡大、新たに 13 カ国を「パートナー国」に

ベン・ノートン

ゲオポリチカル・エコノミー 2024 年 10 月 27 日

<https://geopoliticeconomy.com/2024/10/26/brics-13-partner-countries-summit-kazan-russia/>

BRICS は 2024 年 10 月、ロシアのカザンでサミットを開催し、4 カ国を新たに加盟させた後、さらに 13 カ国の「パートナー国」を追加して拡大した。歴史的な会合から得られた最も重要な成果は以下の通りである。

グローバルサウス主導の組織である BRICS は成長を続けている。グループを支持する国々はますます増えている。その使命は、より代表制が高く民主的で、西側諸国に支配されることのない代替経済機関を伴った多極的な世界を構築することである。

この歴史的な会合で、中国の習近平国家主席は BRICS を「グローバル・ガバナンス改革」そして「国際金融構造の改革」の先駆けであると述べた。

ボリビアの左派ルイス・アルセ大統領は、「BRICS と多極化という盾」はかつて植民地化された国々を守り、「西洋の一極支配とドルの専制」に抵抗する手助けとなると主張した。

この組織は 2009 年にブラジル、ロシア、インド、中国（BRIC）として初めて結成された。その後 2010 年に南アフリカが加わり、BRICS となった。

[2023 年の BRICS サミットが南アフリカのヨハネスブルグで開催された際](#)、さらに数カ国が招待された。2024 年 10 月現在、BRICS には 9 カ国のメンバーと [13 カ国のパートナー国](#)がある。

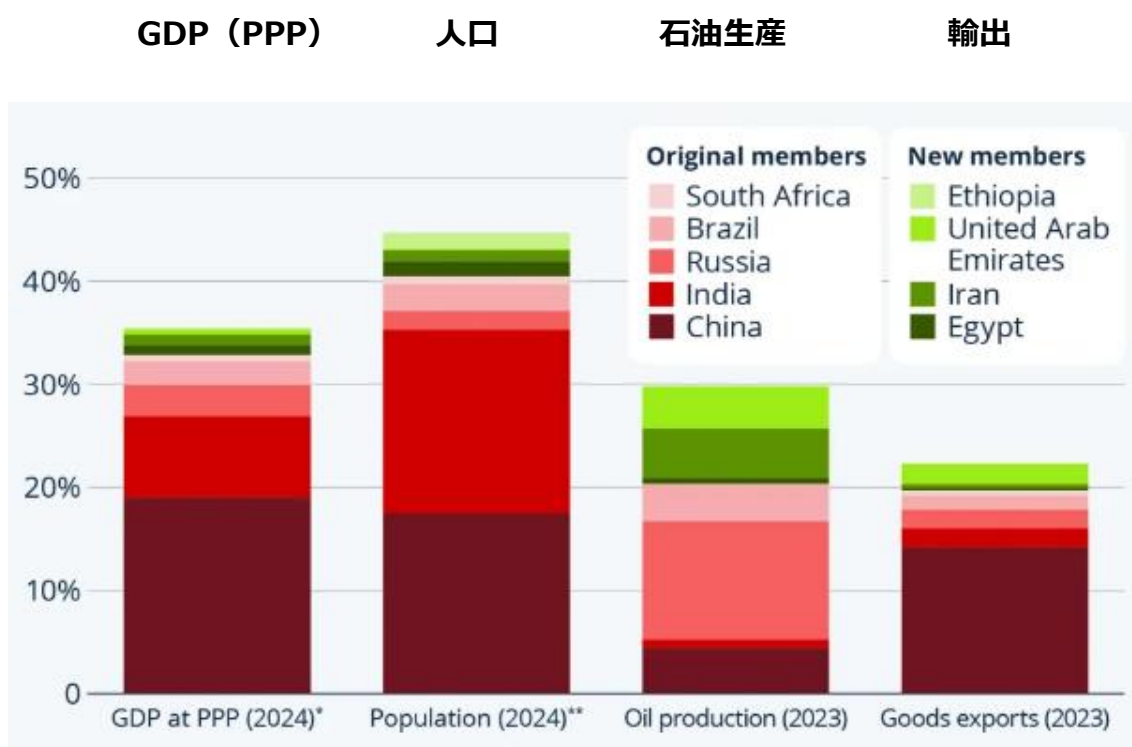
当初からの5カ国 = ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ

新たに加盟した4カ国（2023年8月に招待、2024年1月に正式加盟） = エジプト、エチオピア、イラン。アラブ首長国連邦

2024年10月に加盟が承認された13のパートナー国 = アルジェリア、ベラルーシ、ボリビア、キューバ、インドネシア、カザフスタン、マレーシア、ナイジェリア、タイ、トルコ、ウガンダ、ウズベキスタン、ベトナム

BRICSの拡大により、このグループは地政学的にも経済的にもさらに強力な存在になっている。

拡大 BRICS の世界シェア



BRICSの9カ国を合わせると、世界GDP（購買力平価で測定）の3分の1以上を占める。また、世界の人口の40%以上を擁し、世界の石油生産量の約30%を占めている。

これに対し、G7 諸国の人口は[世界人口の 10%](#)以下、GDP（購買力平価）は 30%以下であり、世界経済におけるシェアは縮小傾向にあるのに対し、BRICS 諸国のシェアは拡大している。

BRICS の新メンバー4 カ国（アルゼンチンとサウジアラビアは含まれない）

10 月 22 日から 24 日にかけてカザンで開催されたサミットには、30 カ国以上が参加した。これは、BRICS の新メンバー4 カ国が参加した初めての会合だった。

ロシアのプーチン大統領、中国の習近平国家主席、インドのモディ首相、南アフリカのラマポーザ大統領に加え、エジプトのシシ大統領、エチオピアのアハメド首相、イランのハメネイ最高指導者、アラブ首長国連邦のムハンマド大統領、そして国連のアントニオ・グテーレス事務総長が参加した。

2023 年のヨハネスブルグ・サミットでは、6 カ国が加盟をよびかけられていたが、アルゼンチンとサウジアラビアは参加しなかった。

当時、アルゼンチンは、アルベルト・フェルナンデス大統領とクリスティーナ・フェルナンデス・デ・キルチネル副大統領率いる中道左派政権であった。彼らは 2023 年 8 月の BRICS への参加の招待を熱狂的に受け入れた。

しかし、招待された国々が正式にメンバーとして承認されたのは 2024 年 1 月になってからであり、アルゼンチンでは 2023 年 12 月に極右派のハビエル・マレー大統領が就任した。同大統領はアルゼンチンの BRICS 参加計画を即座に中止し、この組織を非難して「[我々の地政学上の同盟関係は米国とイスラエルにある](#)。我々は共産主義者と手を組むつもりはない」と述べた。

アルゼンチンとは異なり、サウジアラビアは立場を曖昧にしてきた。同国は招待を正式に受諾していないが、拒否もしていない。同国の事実上の指導者であるムハンマド・ビン・サルマン皇太子（通称 MbS）はカザン・サミットには出席せず、代わりにファイサル・ビン・ファハラン外相が出席した。

BRICS を批判する欧米の人たちは、グループ内に不和を引き起こそうとして、アルゼンチンの拒絶とサウジアラビアの優柔不断を悪用し、組織が分裂しているかのように描こうとしている。

カザン・サミットで「パートナー」カテゴリーが創設されたのは、BRICS が今後このような対立が再び起こらないようにするための措置であったことは明らかである。政府がこの組織への参加を希望する場合、まず「パートナー」として一定期間受け入れられた後、正式メンバーとして加入することになる。（このプロセスは、中国、ロシア、インド、イランも加盟している[上海協力機構](#)のプロセスと類似している）

このこともあって、ロシア政府は[新パートナー](#)は 13 カ国と発表しながら、カザン・サミットではそれらの国名を明らかにしなかった。だが[ジャーナリストたち](#)が、[BRICS 加盟国](#)の内部外交筋を引用し、パートナーのリストを公表した。

中国とインドが国境紛争を解決

カザン・サミットのハイライトは、2024 年の BRICS 議長国としてのロシアが、中央銀行と財務省が発表した報告書に基づき、国際通貨・金融システムの改革計画について議論したことである。

しかし、この会議における最も重要な進展のひとつは、サミットの正式な開始前にもたらされた。

中国とインドがカザンで、4 年間にわたる国境紛争を解決する歴史的な合意に署名した。また、BRICS サミットの傍らで、習国家主席とモディ首相が 5 年ぶりとなる 2 国間会談を行った。

中国とインド両国と良好な関係にあるロシアは、両国間の仲介と協力を推進しており、BRICS 内の結束を深めることに成功したようだ。

関係改善の兆しは以前にも見られ、2024 年 5 月には[北京が 1 年半ぶりに大使をニューデリー](#)に派遣した。

一方、米国はインドを[取り込み、中国との相違点を突く](#)ことで緊張を煽り、中国を孤立させ、BRICS を分裂させようとしてきた。

欧米の企業メディアも同様に、[BRICS 内の対立を煽ろうとして](#)きた。

ベネズエラの BRICS パートナー資格を拒否したブラジルに、ラテンアメリカの左派が猛反発

中国とインドが関係を修復する一方で、ブラジルはカザン・サミットでスキャンダルを引き起こした。

ブラジルのルラ・ダ・シルバ大統領は会議を欠席した。同大統領は負傷して移動できないとあって、代わりにマウロ・ヴィエイラ外相を派遣した。ルラ大統領は欠席していたが、政府は、ベネズエラが BRICS のパートナー国として受け入れられることを阻止した。

これに対して、[ラテンアメリカの左派](#)からはルラ氏に対する激しい[批判](#)が巻き起こった。BRICS を弱体化させ、地域をさらに分裂させ、ブラジルの元極右指導者であるジャイル・ボウソナロの立場に立つことさえしたと非難した。

ベネズエラのニコラス・マドゥーロ大統領は、ブラジルを公然と批判し、BRICS パートナーとしての地位を拒否することは「[ベネズエラに対する攻撃行為](#)であり、敵対的なジェスチャーである」と述べた。

他の BRICS 加盟国はベネズエラのパートナー加盟を支持していた。ルラ氏とは異なり、マドゥーロ大統領は実際にロシアに赴き、サミットに参加した。カザンでは、ベネズエラ大統領は他の BRICS 首脳や 30 カ国以上の代表者と友好的な会合を持った。

このスキャンダルにより、ロシアはブラジルの外交的軽拳に対して異議を唱えるに至った。「我々はブラジルの立場を知っている。我々は同意しない」とプーチン大統領は記者会見で述べた。

「ベネズエラは自国の存続のために戦っている」とロシアの指導者は付け加え、[米国主導によるマドゥーロ大統領](#)の政府に対するクーデター未遂が絶えないことを指摘した。

プーチン大統領は、ルラ前大統領からマドゥーロ大統領と話すよう依頼されていたことを明かした。「事態が解決することを願っている」とロシア大統領は述べた。

BRICS カザン宣言

BRICS のメンバーは 10 月 23 日、長文の[共同声明](#)に署名した。[カザン宣言](#)は、「平和の促進、より代表的な、より公平な国際秩序、再活性化され改革された多国間システム、持続可能な開発と包括的な成長」を求めた。

BRICS は「より公平で公正かつ民主的でバランスの取れた多極的世界秩序」を求めている、と声明は述べている。また「多極化は、新興国および発展途上国（EMDC）が建設的な潜在能力を発揮し、普遍的に有益で包括的かつ公平な経済のグローバル化と協力を享受する機会を拡大する」と主張している。

「ルールに基づく国際秩序」という欧米諸国のあいまいな考え方とは対照的に、カザン宣言では「国際システムにおける国連の中心的役割」と国際法を強調している。

そのうえで声明は、「安全保障理事会を含む国連の包括的改革への支持」を再確認し、「国連事務局およびその他の国際機関の職員構成において、公平かつ包括的な地理的配分を早急に達成する必要性」を強調し、「特にアフリカ、ラテンアメリカ、カリブ海地域における新興国および後発開発途上国の、世界的な意思決定プロセスおよび構造へのより積極的かつ有意義な参加」を呼びかけた。

カザン宣言は、「ブレトン・ウッズ機関の改革を求め、その改革には新興市場国が世界経済に貢献していることを反映した指導的地位における新興国の代表権の拡大が含まれる」とし、「国際通貨金融システム（IMFS）の改善プロセスにおける BRICS の重要な役割」を強調した。

声明は、「違法な制裁措置を含む、不法な一方的な強制措置が世界経済に及ぼす破壊的な影響」を繰り返し非難し、それらの措置の撤廃を要求した。

また、BRICS のメンバーはイスラエルのガザ地区およびレバノンに対する戦争を批判し、「1967 年 6 月の国際的に認められた国境に沿った、主権を有する独立したパレスチナ国家の樹立」を含む「パレスチナ国家の国連への完全加盟への支持」を再確認した。

カザン宣言は同様に、[違法な米国のシリア](#) 占領とイスラエルのイラン攻撃を非難した。

カザン・サミットにおける各国首脳の説明

カザン・サミットでは、中国の習近平国家主席が「BRICS をグローバルサウス諸国の連帯と協力を強化するための主要な手段、そしてグローバル・ガバナンス改革を推進する[先鋒](#)」として発展させるために、各国が協力すべきであると訴えた。

また、習主席はガザとレバノンの平和を訴え、「即時の停戦と殺戮の終結を推進しなければならない。パレスチナ問題の包括的、公正かつ永続的な解決に向けて不断の努力をしなければならない」と述べた。

「グローバルサウス諸国の台頭を踏まえ、我々は BRICS への参加を求める各国からの呼びかけに前向きに応えるべきである」と中国指導者は付け加え、「国際金融構造の改革は、これまで以上に急務である」と述べ、「BRICS 諸国は改革において主導的な役割を果たすべきである」と述べた。

同様に、プーチン大統領は、[米ドル中心のブレトン・ウッズ体制](#)の代替を訴えた。

「次の世界経済成長の波は、世界の多数派の国々で生まれていることは明らかだ。したがって、成長する経済の潜在能力を解き放つための独自のプラットフォームを構築するというアイデアを議論する時が来た」とロシアの指導者は述べた。

プーチン大統領は、より多極的な世界への移行が「順調に進んでいない」ことを指摘し、その発展が、[すべてを、すべての人を支配する](#)という論理で思考し行動することに慣れた勢力によって妨げられているとのべた。

[イランのマスード・ペゼシュキアン](#)新大統領もカザン・サミットに出席し、BRICS がより多極的な金融システムを構築しようとしていることへの熱烈な支持を表明した。

同大統領は「我々は欧米の決済システムに依存し続けるべきではない。これは大きな脅威である」と警告し、「代替案」の確立を促した。また「イランは、BRICS グループが世界経済管理構造の改革とグローバルサウス諸国のための代替策の創出という任務を成功裏に推進できるよう、あらゆることを行うつもりだ」と述べた。

ボリビアの左派大統領レイス・アルセ氏もカザン・サミットに出席した。南米の国家がパートナー国として受け入れられたことを誇らしげに発表したアルセ氏は、BRICS は「日々、[新たな多極的世界](#)の統合を進めている」と述べた。

「BRICS ブロックの支援により、我々は経済とグローバル・ガバナンスの変革を推し進め、共同かつ相互に有益な発展の実現を強化することができる」と述べた。また「カザンでの今回の会合は、歴史的に従属的な立場に置かれてきた民族や国家が BRICS と多極化の盾のもとに結集する、新たな歴史の 1 ページを刻むでだろう」「我々は、いかなる干渉も受けず、自己決定権を確保し、欧米諸国によって妨げられてきた制度上の地位を取り戻すことで、自国の領土における発展を実現し、国家としての大望と発展プロセスを実現する」と強調した。

ボリビア大統領はさらに、BRICS が「[欧米の一極支配とドルの専制](#)」に抵抗するグローバルサウス諸国の「自国民に対する正義」の実現を支援できると強調した。

【翻訳チェック 田中靖宏】